

トピックス

病院見学のサポートや相談セミナーなど随時受け付け中！

当協議会では、県外医学生の病院見学をサポートする「ずんばい回ろう！病院見学アシスト！」を通年で行っています！皆さまの希望をもとに、協議会事務局が見学希望先との日程調整等を行いますので、皆さんが病院一つ一つに申し込みを行う手間が無くなり、試験や実習に集中することが出来ます！旅費の補助もありますので、春休みや夏休みなどに是非ご利用ください！

また、皆さまの要望に可能な限りお応えして、指導医や研修医との交流の場をセッティングする「よろず相談セミナー」も随時実施しています！（初期臨床研修で初めて鹿児島に移り住んだ先輩研修医と話してみたい、〇〇科の指導医の先生から話を聞いてみたい、etc）

将来の進路として総合診療科を検討されている方と、総合診療科の専門研修プログラムを持つ病院とのオンラインセミナーを実施しました！

どちらのイベントも当協議会の公式Webサイトから随時受け付け中です！（ただし病院見学アシストは見学実施月に応じた申し込み締切あり）

皆さまの応募をお待ちしております！



鹿児島大学医学部で対面式の合同説明会を開催しました！

令和7年1月に鹿児島大学医学部鶴陵会館にて、県内すべての基幹型臨床研修病院(12病院)が一堂に会する臨床研修病院合同説明会を開催しました！

多くの医学生の方に参加していただき、指導医・研修医・病院関係者から、病院・研修プログラム内容の説明や研修医生活について紹介してもらいました。



令和7年度も開催予定です！協議会公式Webサイト等にてご案内しますので、前回は残念ながら予定が合わなかったり、遠方で参加できなかった医学生の皆さまも、是非この機会にご参加ください！

指導医養成講習会を開催しました!!

令和7年1月18日(土)、19日(日)に「第15回鹿児島県初期臨床研修指導医養成講習会」を開催しました。

受講者は臨床研修制度や鹿児島県の地域医療の現状について、また、指導するに当たって必要な研修目標の立て方や評価の仕方、コーチング技法など、16時間以上にわたってプライマリ・ケアの指導方法についての講習を受けました。

また、この講習会は厚生労働省の開催指針に則って実施しており、41名の修了者には厚生労働省医政局長名の修了証が授与されました。

当協議会では、研修医の方々がより良い環境で研修を受けられるよう、様々な取り組みを行っていますので、ぜひ安心して鹿児島で研修を行ってください。



鹿児島県初期臨床研修連絡協議会

(事務局:鹿児島県 保健福祉部 医師・看護人材課)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL 099-286-2581 FAX 099-286-5928

<https://kagorinsho.jp/>



鹿児島流

熱いハートの医師 育てます



写真協力:鹿児島県PRポスター

私の臨床研修医時代

公益社団法人鹿児島県共済会
南風病院 院長

よし ども
吉留

しょう じ
正次さん

出身校 鹿児島第一高校▶鹿児島大学

初期研修は鹿児島生協病院で行いました。鹿児島市の南にあり、当時は周囲に救急病院が無かったため様々な症例や救急車が来る、野戦病院のような病院でした。そこで様々な疾患を経験できたことは、今の自分の診療を支えていると思います。

僕が指導医に言われ大事にしていた考えは「自分が希望しない科ほど、ちゃんと研修した方がいい。」です。初期研修が終わると、意外なほど自分の専門以外の診療について経験することは少なくなります。1-2ヵ月限定で、その科の先生たちの仕事について学ぶことができる時間は貴重です。もうひとつ、「各科を回る際は、どこまで専門外の自分で診ていいか、どこからは専門医へ相談した方がいいかを学んで来なさい。」とも言われました。どこから紹介した方がいいかの線引きができれば、将来の自分の診療に役立つだけでなく、適切な医療で患者さんの利益にもつながると思います。

興味ないからと症例を選び好みするのではなく、今しかできない経験だと考え、一人一人の患者さんと丁寧に向き合っていくてください。



出身地 鹿児島県曾於市大隅町

指導医の思い出



出身地 指宿市

いまばやし とおる
今林 徹さん

出身校 ラ・サール高校▶鹿児島大学

勤務先▶国立病院機構 鹿児島医療センター

私は鹿大麻酔科に入局、集中治療も研修しました。最も印象深い指導医のエピソードは、追突事故で、加害者の運転手がハンドルで外傷性胸部大動脈解離となったため、被害者の先輩と一緒に大学病院へ運んで、心臓麻酔をかけたという話です。

その先輩の勧めで、私は大阪の国立循環器病研究センターにて心臓麻酔、集中治療を研修したため、全国に多くの指導医がいます。これまで、多くの診療科とともに働いたため、その方々から学ぶ機会が多かったと思います。また、同期や後輩もそれぞれの分野で活躍し、私にとっての指導医になっています。

また、進路相談、プライベートの相談など、本当に親身になって話を聞いてくださる方々のお陰で、仕事を続けることができたと思います。私も微力ながら、後進の指導に尽力したいと思い、現在、研修医指導も含めた仕事に従事しております。



出身地 鹿児島市

くぼた ともひろ
久保田 知洋さん

出身校 鶴丸高校▶鹿児島大学

勤務先▶県立薩南病院

H16年に医師となり、桜島プログラム1期生として医師の第一歩を踏み出しました。私のプログラムは公的病院や大学病院、民間病院など様々な病院を回ることができ、各専門領域の指導医から医療的な知識だけでなく、患者対応やプライベートの大切ななどたくさんのことを教えていただき、大変良い思い出となっています。

現行の研修プログラムでは小児科や産婦人科など必修が細かく決まっていて大変かと思いますが、自分が進まない診療科こそ、その時にしかできない貴重な経験になりますし、後々役立つこともあります。また、いろいろな専門領域の先生方と一緒に働くことで、働き始めて困ったときなどに相談しやすくなるという利点もあります。

鹿児島の先生方は熱心で愉快的先生が多いので、研修医のみなさんが充実した研修期間が過ごせることと期待しています。



出身地 鹿児島市

わたなべ てるひこ
渡邊 照彦さん

出身校 鶴丸高校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島市医師会病院

研修医時代の思い出について記せよとのこと。我々の時代はインターン制度も廃止され、研修医制度は存在しませんでした(そもそもがインターン制度は安保闘争の争点となっていたのですが)。ひとつ思い出したことがあります。医学部最終学年の臨床実習で外科の先生に、『学生さん、勉強は好き?』と問われ、即座に『嫌いです』と私。『だったら外科に来なさい』と言われ、数か月後にめでたく入局となったわけです。勉強しないで済むとは全くの嘘で、病棟を這いずり回り、発表の資料作りに追われ、家にも全く帰れない日々が続きました。体よく騙されたわけです。ただ指導医の先生方には、大変お世話になり感謝しきれません。馬齢を重ねて今思うことは、外科医にとってはそんな時も必要であったということです。あくまで私見です。今の時代にそぐわないし、外科を目指す先生がまた減ってしまうかもしれません。つまらないことを書きました。研修医諸君頑張ってください。



出身地 宮崎県

すずひがし しんや
鈴東 伸也さん

出身校 都城泉ヶ丘高校▶鹿児島大学

勤務先▶総合病院鹿児島生協病院

平成20年に卒業後当院で初期臨床研修を開始しました。研修期間中は内科を中心に広い視野を持つことを念頭に置いていました。心を削られるようなつらいこともありましたが、そこで得られた知識や経験はその後に活かされていると感じています。また、仕事だけでは視野が狭くなると私自身考えており、卒後15年以上経過した今も時間を見つけては大学の部活(空手道)に顔を出し、練習(指導)を行い学生とのコミュニケーションをとっています。

初期及び後期研修医期間に得られる経験は自分という医師を形作る基礎になっていると思います。一つ一つの出会いや経験を大切に研修に取り組んでください。

研修医の声



出身地 鹿児島市

みやはら かずき
宮原 和暉さん

出身校 鶴丸高校▶鹿児島大学

研修先▶鹿児島市立病院

気づけばすでに2月中旬、慌ただしく研修医生活を送っていると自身の国家試験受験からすでに1年を経過していることに驚きを隠せません。医師国家資格を取得して、意気揚々と研修の門を叩いた4月、知識と経験の不足で何も分らず、右往左往していたことを今でも覚えています。それでもこうして1年を無事に終えることができたのはひとえに指導医やスタッフ、2年目の先輩方、そして14名の同期のおかげであることは間違いありません。

研修医になってからは学びの毎日を過ごしてきました。診療科ごとの検査や治療、手技について学ぶ機会はもちろん、救命救急センターとしての顔を持つ当院では救急外来で1分1秒を争う現場を学び、自分で診断、治療を選択するプロセスを思考する機会を得て、座学では得られない経験を多くしてきました。

未熟な私ですが、このような経験を経て、医師としての成長を図っていけるように日々精進を重ねていこうと思います。



出身地 鹿児島市

いがく ひかる
猪鹿倉 光さん

出身校 ラ・サール高校▶東京医科大学

研修先▶鹿児島大学病院

研修医として駆け抜けた2年間、患者さんと向き合い、苦しみや喜びを共にする中で、医師としての使命を深く実感しました。様々な病院での経験を通じて、鹿児島ならではの医療の現場に深く触れることができました。

獅子島の診療所を漁船で訪れた日には、島民の方々の温かさや地域医療の意義を肌で感じました。また、ドクターヘリで大動脈解離の患者さんを搬送した緊張感の中では、迅速かつ正確な判断の重要性を痛感しました。鹿児島という地に根ざし、多くの先輩方やスタッフの皆様から指導を受け、成長できたことを心から感謝しています。

初めは不安と戸惑いの連続でしたが、一つひとつの経験が確実に私の糧となり、医療者としての覚悟を育んでくれました。これからは脳神経内科医として、鹿児島の地域医療を支える存在であり続けるとともに、患者さんに寄り添い、希望を届けられる医師を目指して邁進して参ります。



出身地 鹿児島市

ながかり たくみ
永仮 拓己さん

出身校 ラ・サール高校▶鹿児島大学

研修先▶霧島市立医師会医療センター

研修医になり早くも1年が経過しようとしています。この1年間は初めて経験することの連続であり、私の人生の中でもとても濃い1年間だと思います。

初めは不安と戸惑いの連続でしたが、一つひとつの経験が確実に私の糧となり、医療者としての覚悟を育んでくれました。これからは脳神経内科医として、鹿児島の地域医療を支える存在であり続けるとともに、患者さんに寄り添い、希望を届けられる医師を目指して邁進して参ります。

長いようで短い2年間、一生のうちで失敗を恐れずに学べる唯一の2年間。この研修の期間を通して、医師としても人としても成長できるように日々頑張っていきたいと思います。



出身地 鳥取県

せ とぐち たかあき
瀬戸口 貴昭さん

出身校 愛光高校▶山口大学

研修先▶米盛病院

初期研修医として初めての1年が経とうとしています。何が出来て何が出来ないのか、出来るようになるにはどうすれば良いかを考える2年間にしたいと肝に銘じた1年でした。自分なりに考えて行動した結果が上級医の信頼を得ることにつながった時は、今後も頑張ろうと思え、考えが足りなかった時は、反省し次に活かそうと思えているのは、良い点は評価し、悪い点はなぜよくないのかを明示したうえで指導いただける環境下で研修が行えていることが大きいと感じています。来年度、後輩も5名入職してくるため、良き手本となれるよう、そして初学者としての姿勢を忘れずに精進していけたらと考えています。

また、他職種や患者様・ご家族様への対応の仕方も、社会人1年目として日々学ぶことが多いです。患者様それぞれに、自分では想像し得ないこれまでの人生があることを忘れず、患者様・ご家族様にとってベストな診療が出来るよう心がけていきたいです。